

## 事業名 ちびっこ冒険ひろば

〈拠点〉緑児童館

対 象 乳幼児親子

### 事業内容

週に1度、にいのみ池プレーパークで開催されるちびっこ向けの遊び場です。乳幼児期はからだと心の基礎がつけられる大切な時期です。その時期に、プレーパークで自らの知的好奇心の赴くまま、自由に遊ぶことを通じて子どもたちは自ら感じ考え、育つ力を発揮します。また、大人にとっては、そうした子どもの姿を見て子どもの力を知り、信じる機会となり、ともに子育てを大切にしよう仲間づくりの場でもあります。

### 事業のポイント

- ・やりたいことをやりたいだけやってみることができる
- ・ちょっとしたケガもケンカも大事な宝物である
- ・親子共に自由であれる場所である

### こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

#### 子ども

- ・自分の内面を見つめる力
- ・自分の思いや気持ちを表現する力
- ・自分の考えや意思を伝える力
- ・計画や目標を立て、目標達成までのプロセスを管理する力

#### 大人

- ・ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・子どもの育ちを理解する力
- ・自己肯定感(ありのままの自分を受け入れる力)

### エピソード

ひろばももうすぐ一区切りしようかというお昼過ぎ。一人きりになった泥場で一心不乱に遊び続ける男の子がいました。足で泥を踏みしめ、手でぐちゃぐちゃにかきまぜ、イスから泥場へダイブして、全身どろどろでひどい有様です。泥を見つめるその眼はまさに真剣そのもの。男の子を見守るお母さんに声をかけると、「あまりに一生懸命遊んでいるから、すごいなあ、いいなあって思って。帰るよ、なんて声はかけられなくなってしまいました。」と苦笑い。今や暇つぶしとしての地位すらも危ぶまれる「遊び」ですが、本来遊びは子ども自身が力を発揮することであり、生きることそのもの。そんな凄みを、たった2歳の子からひしひしと感じさせられたんですね。その後「わたしんともよ～」と長い散歩から戻ってきた親子も合流し、子どもたちはもうひとしきり遊び、親たちは「帰りたいんだけどねえ…」と愚痴をこぼしながらも笑って見守り続けることとなるのでした。存分に遊びつくせる子どももすごいけれど、それを困りながらも、それでも笑って見守ろうとする大人もすごい！これがもし親子二人きりだったり、「見守ることは親としての当然の責務だ」なんて場所だったら、きっと心折れていたことでしょう。子どもが自分たちで遊ぶんだよね、自分たちで育てていくんだね、ということを実践しながら、子どもにも大人にも寄り添いあえる場をつくります。